

2023年5月31日
国立大学法人東京大学
公益財団法人川崎市産業振興財団
ナノ医療イノベーションセンター
川崎市

東京大学、川崎市産業振興財団及び川崎市が ナノ医療及び看護ケアイノベーションの 推進と普及に関する基本協定を締結

2023年5月、国立大学法人東京大学（本部：東京都文京区、総長：藤井輝夫、以下「東京大学」）、公益財団法人川崎市産業振興財団（所在：神奈川県川崎市、理事長：三浦淳、以下「川崎市産業振興財団」）及び川崎市（市長：福田紀彦）は、ナノ医療及び看護ケアイノベーションの推進と普及に向けて協力する上での基本協定を締結しました。

本協定により、三者は、世界中に広がる医療とケアに関する多様な学術や技術、モノ、人材といった資源を循環させながら融合し、イノベーションを創出する仕組み（グローバルエコシステム）を形成するなどして、健康寿命の延伸と新産業の創出に向けた次の協力事項に取り組んでまいります。

本協定による協力事項

1. 産官学連携・オープンイノベーションの促進
2. 看護ケアイノベーションの実証の場の利活用
3. イノベーション人材の育成・教育
4. その他、目的達成のために必要な事項

1. 経緯

川崎市産業振興財団は、産官学・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設立したナノ医療イノベーションセンター（iCONM）^{※1}を川崎市の支援を受けながら運営し、東京大学など多くの機関と共にナノバイオ技術を活かした未来医療の研究開発を行ってきました。2022年10月には、文部科学省/JSTの「共創の場形成支援プログラム（共創分野・本格型）」^{※2}に、同財団を代表機関、iCONMを中核機関として、東京大学や川崎市を含む産官学36機関が参画する「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」をビジョンに掲げた提案を行い、採択されました。iCONMを中心に開発してきた小型診断機器やナノマシン技術が看護の見守りや老化による身体機能の衰えを抑制する革新的技術や製品を生み、それらを社会実装することで、同ビジョンの達成を目指しています。（プロジェクト名「CHANGE」）^{※3}

この取り組みを進めるため、今回、東京大学、川崎市産業振興財団及び川崎市は協定を締結することとなりました。東京大学は研究開発の中心的な役割を担い、川崎市は市政と絡めて地域包括ケアの推進及び産業の育成に関与することで、ナノ医療^{※4}及び看護ケアイノベーションの発展に貢献していく予定です。

2. 期待される効果

三者協働により、グローバルレベルで進む少子高齢化がもたらす医療・ケア人材の不足と医療従事者への過度な負担集中といった社会課題の解決に繋がる、新たなケアサービス・システムの創出に貢献します。

また、川崎市殿町地区^{※5}に集結する世界最高水準の研究開発拠点から健康・医療・福祉の領域で新産業を創出するグローバルなオープンイノベーションを推進、研究成果の迅速な社会実装を促進し、イノベーション人材を輩出することが期待されます。さらには、若者を中心とした多くの人々に向けた様々な情報発信、啓発活動によって、ケアリテラシー醸成、科学教育の支援、促進にも取り組んでいく予定です。

※1：ナノ医療イノベーションセンター <https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

※2：共創の場形成支援プログラム <https://www.jst.go.jp/pf/platform/>

※3：プロジェクト CHANGE <https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

※4：ナノ医療 細胞よりも小さな世界で行う医療を意味する。ナノマシンを用いた薬剤の送達や検査・診断などが含まれ、正常組織への影響を極力抑えた優しい医療と言える。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/kids/glossary/%e3%83%8a%e3%83%8e%e5%8c%bb%e7%99%82/>

※5：川崎市殿町地区 <https://www.king-skyfront.jp/>

川崎市は川崎市殿町地区（羽田空港の南西、多摩川の対岸）において、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点を整備する都市再開発プロジェクトを進めてきた。約40haに及ぶこのエリアはキングスカイフロントと称され、健康・医療・福祉、環境といった課題の解決に貢献するとともに、この分野でのグローバルビジネスを生み出すことで、日本の成長戦略の一翼を担う地区となっている。



左から東京大学藤井総長、川崎市産業振興財団三浦理事長、川崎市福田市長